

特集！！ハルちゃんが行く！！

～作業現場取材～

今回は四万十町の森林で働く小島さんを取材してきました。小島さんはサービス業からの転身で、高知県立林業学校の第一期生として林業の基礎を学び、卒業後は四万十町森林組合に就職しました。配属された班は以前取材した「秋田班」です（記事：現場取材 No.2【H27.12.14】）。秋田班は3人兄弟のベテラン作業班で、そこに新人の小島さんが加わりました。



ハルちゃん

山で仕事をしている間は班員は「家族」

木を伐りトラックで山から運び出すまでが木材生産の仕事です。小島さんが林業の現場に入って、まず担当したのは「荷掛け」と呼ばれる作業です。伐り倒した木をワイヤーを使って林業機械で斜面から引っ張り上げる際に、斜面を登り下りして一本一本の伐倒木にワイヤーをくくりつける作業が「荷掛け」です。足場の悪い斜面を歩き回るので、体力的にかなり大変です。小島さんは「荷掛けは集材中の木の動きや作業の流れが分かるので勉強になる」と前向きです。同じ班の仲間でありベテランの先輩たちは「荷掛けがキツイ担当なのはよく知っているので、荷掛けをする人の体力を考慮しながらワイヤーを掛けた後の退避（安全のため引き上げる木から遠く離れる）の指示を出す」と言い、常に気遣っていました。

班のベテランの方の話を聞いていると、「山にいる間は家族」という言葉が何度もありました。林業の現場はお互いの信頼や息を合わせること、思いやることが欠かせない仕事です。小島さんに掛けた「お前も家族やぞ」の言葉は、命がけの危険な林業の仕事と一緒に向かう仲間として、気持ちをひとつにしているんだな、と私は感じました。



今回の現場作業です。
静かな山の中で、機械の音が響きます。

初めてグラップルで積み込み

取材をした日は、小島さんが初めてグラップルを使った丸太の積み込みの練習をしていて、ベテランの先輩が付きっきりで見守っていました。1回目の積み込みは、ベテランなら10分で終わるところが、試行錯誤しながら1時間かかったそうです。2回目の積み込みは短い時間で済み、ご本人も手ごたえを感じていました。

上写真：丸太の積み込み作業の様子。グラップルで材をつかみ、旋回して後ろのトラックに積み込みます。丸太は一本一本の太さが違ううえ、根元と先端の太さも異なるので、トラックの荷台にバランスよく積んでいくのが難しいそうです。**左下写真：**積み方のアドバイスをするベテランの照由さん。「まじめにアドバイスをよく聞くので、教えがいがある。午前中より上達したな。」と労をねぎらっていました。**右下写真：**グラップルを操作する小島さん。真剣です。

